

小諸高原美術館・ 白鳥映雪館

～昆虫たちの豊かな世界～ 海野和男写真展
昆虫の擬態・バタフライガーデン



開催期間 7/22 (木) ～ 8/22 (日)

昆虫写真家の第一人者として世界を舞台に活躍されている海野和男氏が小諸市内にアトリエを構えているご縁から、市立小諸高原美術館・白鳥映雪館では毎年、「海野和男写真展」を開催しています。

今年は「昆虫の擬態」と「バタフライガーデン」をテーマとした二本立ての展覧会とし、海野和男氏が日本をはじめ、世界各地で取材し数十年に渡って撮りためた約200点の擬態昆虫写真、海野氏の市内アトリエの庭に造られたバタフライガーデンに集う蝶を撮影した約200点の写真を展示します。

合わせて「生きもの写真リトルリーグ」の過去入賞作品も展示します。「リトルリーグ」は、来年度開催に向けて、クラウドファンディングの募集も予定しています。詳細は、来月号でお知らせいたします。



ハナカマキリの幼虫が花の近くで虫を待っている。この後、ミツバチをつかまえるところを動画で撮影した。(マレーシア 2020年1月)

▶会場 市立小諸高原美術館・白鳥映雪館

第1・第2展示室

▶時間 9:00 ～ 17:00

▶観覧料 一般 500円 (400円) 小中高生 無料

※()内は、30名以上の団体料金 (白鳥映雪館は有料)

▶休館日 7/26 (月)、8/2 (月)、10 (火)、16 (月)

▶イベント オープニングマルシェ 7/22 (木)

〒 小諸高原美術館・白鳥映雪館 ☎ 26-2070

昆虫写真家

海野和男の小諸日記



絶滅危惧種のウラギンスジヒョウモン

ウラギンスジヒョウモンは草地に住むヒョウモンチョウの仲間で、いつの間にか姿を消した場所が多く、今は絶滅危惧種に指定されている。ぼくの庭には住み着いていて、見ていると庭からほとんど外に出ない。

春に幼虫はスミレの葉を食べて成長。7月の初めに羽化し、8月初めまで活動して、真夏は休んでいる。9月になると再び活動をはじめ産卵する。他の大型ヒョウモン類は8月は涼しい高原に避暑に行き、9月にまた戻ってくるのだけれど、ウラギンスジヒョウモンはどうやら、生まれた場所から離れないようだ。

小諸では平地から高原まで、広く分布するが、いる場所が局地的なのは、住める場所が少なくなっているということだろう。



庭の草むらで交尾するウラギンスジヒョウモン



隣地との境界を明確にして お互いすっきりとしましょう!

土地の境界／土地の境界には筆ごとの範囲を公的に区分する「筆界」と、所有権の及ぶ範囲を区分する「所有権界」があります。一般にはこの両者は一致するものですが、所有権界は当事者間の合意や時効取得などにより変動することがあり、筆界と相違する場合もあります。

最新のGPS(衛星からの)測量技術で正確さを競っています。

お気軽にお電話ください
TEL 0267-22-9491
小諸市六供1-3-17 丸山写真館様3軒うえ

土地家屋調査士 川上 陽次郎
(株) ユーアール測量設計代表

緑の丘にふれあいの鐘が鳴る やまびこ園



障害者グループホーム
障害者支援施設
軽費老人ホーム
デイサービスセンター
認知症対応型グループホーム



社会福祉法人 小諸青葉福祉会 小諸市大字柏木1328 ☎ 0267-23-9515